

区民協働のあり方検討会議の進め方

第1回 地域の活動主体の「課題」と「長所」

(7月5日開催)

資料

地域に存在する6つの活動主体 町会・自治会、地区区民館・同運営委員会、NPO、ボランティア団体、事業者、学校・学術機関、区 の例示



ワーク1

6つの活動主体それぞれの、活動の課題と、他の活動主体と比較した長所として指摘されている事柄の洗い出し



第2回 活動主体同士の「課題」と「長所」の組み合わせから生まれる、

「課題解決」につながる新しい協働の可能性

(7月21日開催)

資料

地域の課題解決につながる可能性を持つ、ある活動主体の「課題」と、他の活動主体の「長所」の組み合わせから生まれる、新しい協働(課題 × 長所 = 解決可能性)のイメージの例示



ワーク2

自身が属する活動主体の「課題」に対し、他の活動主体の「長所」のうち、当該課題の解決につながる可能性が発生する組合せの探究



第3回 活動主体同士の「新しい協働」の魅力・可能性の具体的な取り組みの創造と、実現に向けての課題の抽出

1 ワークの目的

ワーク3 「課題」×「長所」 「課題解決」の具体的な取り組みの創造

自身が属する活動主体の「課題」と、他の活動主体の「長所」を組み合わせ、
「課題解決」につながる、他の活動主体と力を合わせてやってみたい(できたらいいなと思う)、「新しい協働」の可能性の具体例を創造する。



ワーク4 実現にあたっての困難(現実とのギャップ)の抽出

ワーク3で創造した具体例の実現に取り組む際、現実に横たわる困難な事=「現実とのギャップ」を抽出する。



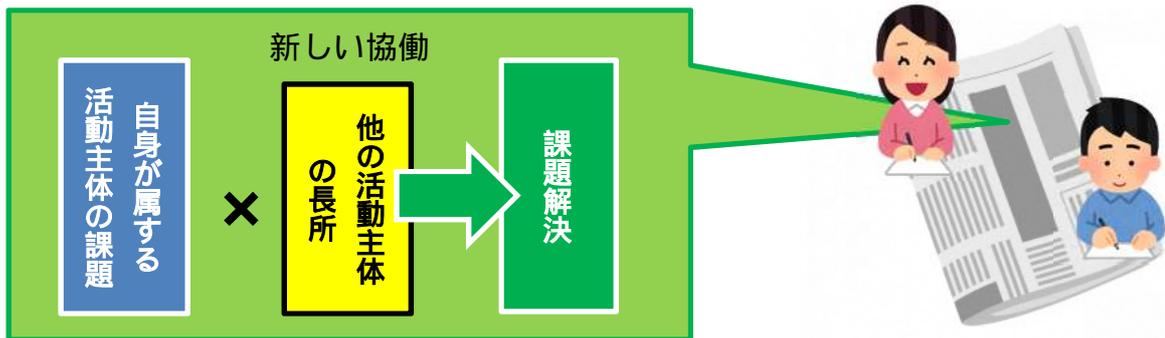
ワーク3・4の目的

新しい協働の可能性である、課題と長所の組み合わせから生まれる課題解決の具体例と、現実において阻害要因となる事柄を明らかにすることを通じて、各活動主体や区が取り組むべき方向性を整理する。

2 ワーク3の内容・手順

内容

他の活動主体と力を合わせて実現した課題解決の事例を、新聞記事形式でまとめ



【ワーク時の組み合わせ(2人1組) 敬称略】

活動主体	委員		活動主体	委員	
	担当	補助		担当	補助
町会・自治会	武田	美玉	NPO・ボランティア団体B	尾原	田中
地区区民館	高原	事務局	NPO・ボランティア団体C	村木	佐藤
NPO・ボランティア団体A	三谷	事務局	NPO・ボランティア団体D	吉田	広石

手 順

見出しの検討

活動主体ごとに、自身の活動を基本に「他の活動主体の力を借りてやってみたい(できたらいいな)」ことを考える。



それを実際に「やった」結果について、新聞に掲載する際の「タイトル」、
「サブタイトル」を考える。 サブタイトルは、2以上の活動主体を登場させる

例：タイトル『育児も仕事も地域で応援』

サブタイトル「23区初！NPOと地区区民館が組んで、
“親子コワーキングスペース”を開設」

タイトル『地域貢献で、健康寿命を延ばす』

サブタイトル「町会とNPOが力を合わせ、定年後の地域貢献の入り口を準備」



発表

中身（ストーリー）の検討・新聞の作成

活動主体ごとにタイトル・サブタイトルに沿って、ストーリーを作成し、新聞
（テンプレート）を完成させる

ストーリーの要素

5W1H（いつ、だれが、どこで、なにを、なぜ、どのように）

資料3を参考に、自身の活動主体の課題と、他の活動主体の長所が活かされて
いることがわかること

結果（参加者や利用者の声、満足度）

成果

今後の展望



発表 各委員は、他委員の新聞の内容に対して、付箋を貼る

黄色：良かったと思うこと「いいね」

青色：こうしたこともできるよと思うこと「もっとアイデア」



3 ワーク4の内容・手順

委員ごとに作成した壁新聞の内容を実現するに当たっての「困難なこと」を考え、付箋または紙に書き出す。書き出された「困難なこと」の分析等は第4回で行う。

第4回 「新しい協働」を実現するために取り組むべきことの検討

第5回 報告書まとめ